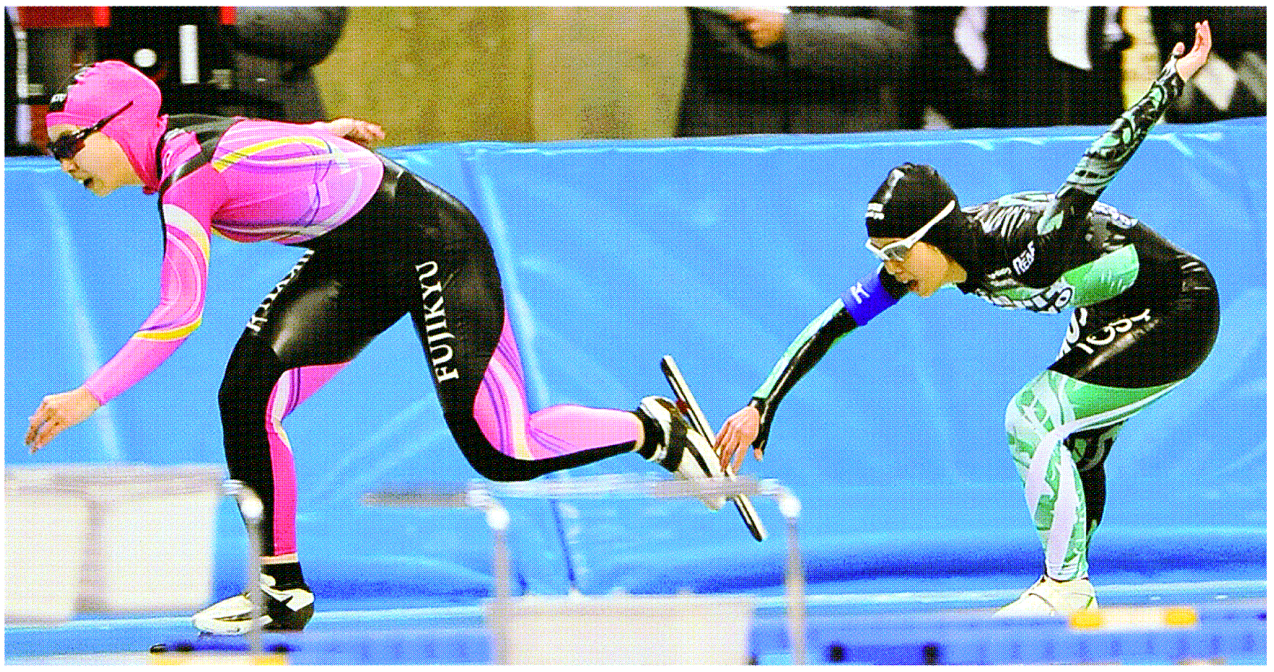
(C)十勝毎日新聞社

押切 高木菜 五輪へ前進



【女子1500㍍】最終ストレートで競り合う押切美沙紀（左）と高木菜那

スピードスケート代表選考会

女子1500

田畑優勝、高木美は5位

ソチ五輪への道 Sochi XXII Olympic Winter Games

【長野】スピードスケートのソチ五輪日本代表選手選考競技会（日本スケート連盟主催）第1日の27日はエムウエーブで1500㍍を行い、代表4枠を争う女子は、押切美沙紀（富士急―駒大苫小牧高、中札内中出）が1分59秒64で3位、4位には0・03秒差で高木菜那（日本電産サンキョー―帯南商高出）が食い込み、ともに初の五輪代表へ前進した。連続五輪代表を目指す高木美帆（日体大―帯南商高出）は5位に終わった。39歳のベテラン田畑真紀（ダイチ）が1分59秒05で優勝し、5度目の五輪出場を確実にした。2位は菊池彩花（富士急）。同1枠を争う男子は、有力候補の大和田真（北翔大―本別高出）が1分49秒39で3位に終わった。中村奨太（ロジネットジャパン）が優勝したが、代表選考基準を満たした2位の近藤太郎（専大）が五輪出場に近づいた。第2日は28日、男女計4種目を行った。正午から行われた500㍍の女子1回目は、辻麻希（開西病院）が38秒45で2位となった。3位には38秒47の僅差で神谷衣理那（毎日元気―白樺学園高出）、5位には39秒21で郷亜里砂（アルムシステム）がつけた。仁科有加那（日本電産サンキョー―帯南商高出）はスタートでバランスを崩し10位だった。首位は38秒21の小平奈緒（相澤病院）。42歳の岡崎朋美（富士急）は6位だった。（岡部彰広、塩原真）

終盤の粘りで3位

押切

【女子1500㍍】表彰台で手を振る押切美沙紀

社会人3年目の押切美沙紀が、最終組で同じ歳のライバル高木菜那を0・03秒差で振り切り、初の五輪代表により近づく国内自己新の3位でフィニッシュ。口元を押さえながら1周すると、富士急の先輩で2位となった菊池彩花に抱きつき、涙を流した。

国内調整組からの飛躍だ。10月の全日本距離別選手権では8位。ワールドカップ（W杯）代表からは漏れた。その分、ジャパンカップでは4戦中、この種目で3度の優勝を飾った。自信を付けるとともに、代表に必要なものを模索した。それが、忘れかけていた、持ち味の「終盤の粘り」だった。

フォームは粗削りで、トップレベルの選手と比べて下手だと自覚している。その分、「最近忘れていた」という、諦めない気持ち、負けん気の強さなどメンタル面を強化して勝負することを決めた。

大会直前に、滑りのこつを一つ見いだした。黒岩彰監督がこう話す。「これまで重心を乗せることができなかったが、強い筋肉を推進力に変えて滑れるようになった。本人から2、3日前に、これだったら行けるかもと言われたばかり。この場でこの順位。大したもの」

最終周回では、残り300㍍から両手を振って、高木菜那の追い上げを振り切った。

高校3年でインターハイ短距離2冠。その前のシーズンに中学生で五輪に出場した高木美帆は、学校は違うが中学時代に一緒に練習した後輩だ。「当時、五輪は手が届かないところだと思っていたが、美帆が行って、自分も行きたいと思っていた」

社会人になってオールラウンダーへ転向。そして今回の結果を踏まえ、五輪全種目出場の鉄人、橋本聖子さん（現日本スケート連盟会長）が新たな目標となった。「近づけるように頑張りたい」

2位と0・12秒差 頑張りどころミス

大和田真

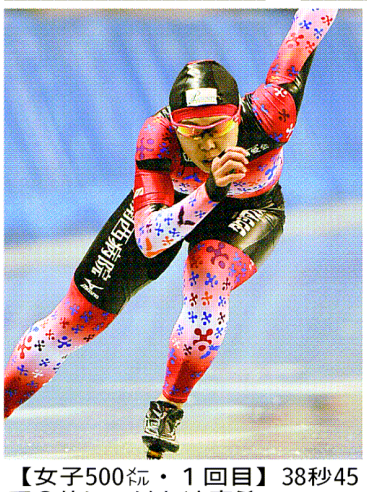
○…1500㍍ですでに派遣標準記録を突破している大和田真は、優勝すれば初の五輪出場が濃厚だったが、結果は3位に終わった。

中村奨太が優勝と同時に同標準記録を突破できなかったため、2位の近藤太郎（専大）が代表最有力に。その差はわずか0・12秒。「頑張りどころをミスした。900㍍からの直線ではなく、その前のコーナーでギアを入れなければ」

今月は冬季ユニバーシード大会（イタリア、11～21日）に出場。前日にようやく時差ぼけが解消されたという。「だから、今の状態では100点のレース。1000㍍ではあと2段、40㌢高いところへ登ります」と2枠の狭き門に向けての決意を新たにした。

辻が1回目2位

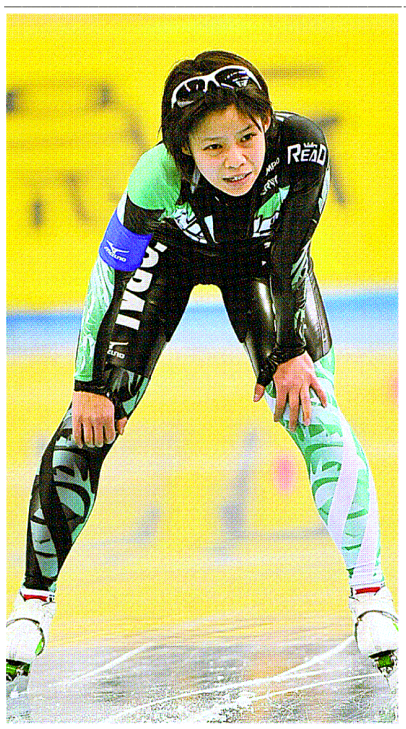
女子500



【女子500㍍・1回目】38秒45で2位につけた辻麻希

内容悪くない

男子1500㍍5位・今野陽太の話　内容は悪くなかった。ただ、派遣標準タイム（1分48秒50）を切った中で負けたのならしょうがなかったのだが…。（最終日の1000㍍に五輪への望みをつなぎ）悔しがるのは、それが終わってから。



【女子1500㍍】五輪出場が狙える4位につけた高木菜那

妹 姉 木 高 暗 明 は 日 初

枠内4位も油断せず 菜那 残り種目へ引き締め 美帆

初日の女子1500㍍で、姉妹での五輪出場を目指す姉の高木菜那と妹美帆が明暗を分けた。菜那は代表枠内の4位に食い込んだが、美帆は姉に遅れること0・26秒で枠外の5位となり、この種目での出場が難しくなった。

菜那は、3位となった押切美沙紀とデッドヒートの末、僅差で敗れた。700㍍すぎに足の疲労が顕著になったという。「3番以内に確実に入りたかった」と言葉少な。

美帆は、18日のユニバーシアード冬季大会（イタリア）1000㍍で優勝。復調の気配を見せ、最終カルテットの2組を残して2位につけていたが、菜那を含む3選手に抜かれた。「いい状態だった。でも体と滑りが合わせきれていない」とレースを振り返った。

代表入りに近づいた菜那だが、楽観はしていない。「4位はぎりぎりのライン。あと3本（レース）、全部出せるよう気持ちを切り替えたい」と話す。美帆も「まだ2日残っている。しっかり気を引き締めて迎えたい」と、姉妹がともに笑顔で今大会を終われるよう、全力を尽くす。

【女子1500㍍】滑り終え浮かない表情を見せる高木美帆

終盤に失速も「次につながる」

松田

○…中長距離を得意とする松田有幾（十六銀行―白樺学園高出）は、初日の1500㍍で終盤失速し10位に終わった。

「力が入っていたのかもしれない」。いつもより1周早い、700㍍通過時に足に疲労を感じた。「残りがとてもつらかった」

しかし、700㍍のラップタイムで、出場者中2番手と、もう一つ得意とする1000㍍で必要とされるスピードが得られていたことを確認。「次につながる」と前を見据えた。

特化した強化実る

女子1500㍍優勝・田畑真紀の話　（オフに）1500に特化したトレーニングをし、それが今につながっている。めいやおいが中体連で頑張っているし、これからの子供たちにつなげる選手でいられるよう、五輪で見せたい。

（27日・7位以下関係分）

【男子】▽1500㍍（カルテット）

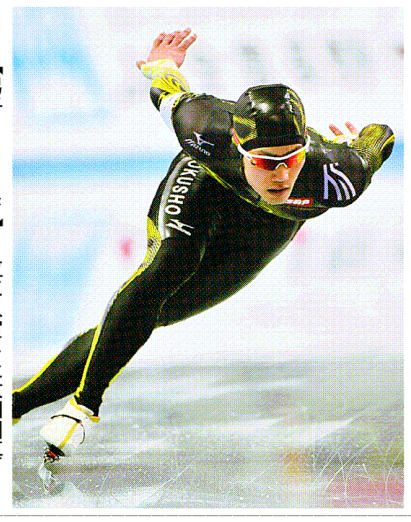
世界記録　シャニー・デービス（米国）	1分41秒04
日本記録　今野　陽太（開西病院）	1分45秒37
国内最高記録　杉森　輝大（吉羽木材）	1分47秒49
リンク記録　デニー・モリソン（カナダ）	1分45秒22
①中村　奨太（ロジネットジャパン）	1分49秒02
②近藤　太郎（専大）	1・49・27
③大和田　真（北翔大―本別高出）	1・49・39
④小田　卓朗（早大）	1・49・67
⑤今野　陽太（開西病院）	1・49・77
⑥阿部　大輝（クレアシオン―日大、白樺学園高出）	1・50・00

⑨渡部知也（日体大―池田高出）1・50・89⑩新田昌樹（とかちチームＡＡ）1・51・002⑫池田崇将（専大―白樺学園高出）1・51・45⑬森哲平（北斗病院）1・51・71⑭小川翔也（専大―池田高出）1・51・75⑰磯賢汰（日大―帯農高出）1・52・40⑲道下雅史（十六銀行―専大、白樺学園高出）1・52・66⑳小林友剛（水戸開研―明大、白樺学園高出）1・52・84㉑小坂龍（専大―白樺学園高出）1・52・99㉓小川新太（明大―白樺学園高出）1・54・48

【女子】▽1500㍍（カルテット）

世界記録　シンディー・クラッセン（カナダ）	1分51秒79
日本記録　田畑　真紀（ダイチ）	1分54秒28
国内最高記録　菊池　彩花（富士急）	1分58秒12
リンク記録　アンニ・フリージンガー（ドイツ）	1分56秒06
①田畑　真紀（ダイチ）	1分59秒05
②菊池　彩花（富士急）	1・59・39
③押切美沙紀（富士急―駒大苫小牧高、中札内中出）	1・59・64
④高木　菜那（日本電産サンキョー―帯南商高出）	1・59・67
⑤高木　美帆（日体大―帯南商高出）	1・59・93
⑥小平　奈緒（相澤病院）	2・0・42

⑦石野枝里子（日本電産サンキョー―白樺学園高出）2・1・30⑨高橋菜那（山梨学院大―白樺学園高出）2・1・80⑩松田有幾（十六銀行―白樺学園高出）2・1・95⑪石澤志穂（トランシス―駒大苫小牧高、中札内中出）2・2・32⑫門奈津実（ダイチ―白樺学園高出）2・2・53⑱藤村あゆみ（タカショー―日体大、白樺学園高出）2・4・13⑲原田梨央（白樺学園高）2・4・24



【男子1500㍍】3位に入賞した大和田真